



たくさんの優しさに見守られている 青山学院での17年

大学国際政治経済学部国際コミュニケーション学科3年

岡田 朋峰 さん

OKADA Tomomi

1998年東京都生まれ。青山学院幼稚園から初等部、中等部、高等部で学び、現在大学国際政治経済学部国際コミュニケーション学科3年に在籍中。2018年10月にミス・インターナショナル日本代表に選出、2019年11月に行われる世界大会への出場が決まっている。現在は学業と日本代表としての活動を両立、多忙な日々を送る。



初等部、洋上小学校での様子

自主性が育まれた幼稚園からの一貫教育

——岡田さんは幼稚園から大学まで本学院で過ごしてこられました。ご自身が受けてきた教育についてどのように感じていらっしゃいますか。

青山では常に自主性を重んじた学びを与えていただきました。たとえば幼稚園では、一日中ブランコに乗っている私を両親が心配しても、先生は叱ることなく見守ってくださいました。振り返れば、やりたいことを肯定してもらえることが安心感や自信につながり、次のアクションを起こす原動力となっていた気がします。

初等部では日記の提出が滞ったとき、先生から「日記を書きなさい」ではなく「朋峰ちゃんの日記がそろそろ読みたいな」と言われたのがうれしくて、毎日きちんと書くようになりました。校外学習も思い出深く、雪山で生活する雪の学校では、何をして過ごすかを自分たちで決めたことが心に残っています。長崎の平戸で遠泳をする海の生活では、先生が「遠泳の



初等部から高等部、12年間一貫して学ぶ学院独自の英語教材『SEED BOOKS』

距離や速さを競うのではなく、自分のベストを尽くすことが大事なんだよ」と話してくださいました。総合活動では放送プロジェクトに参加し、校内放送の番組を作ったりしたのですが、その際も先生は私たちが間違えた場合の練習までちゃんとやらせるんです。そして「どうしよう」と本当に途方に暮れてしまったときに、絶妙なタイミングで解決の糸口になるような助言をしてくださいました。幼稚園でも初等部でも、とにかく子どもの自主性を最優先にした教育がなされていて、先生方はいつも見守ってくださいました。子ども心に「生きた学び」を実感する日々でした。今、私が人前で自分の考えを臆することなく話せているとしたら、その礎は幼稚園や初等部の時点で培われたに違いありません。

『SEED BOOKS』で培った英語力

——**初等部の頃から英語が好きで、得意科目だったそうですね。**

小学校から高校までの一貫したカリキュラムに基づいて作成された、青山学院独自の英語教材『SEED BOOKS』で英語と出会えたことは、私にとって幸せなことでした。日本語が一切書かれていないこの教科書とCDで、学んでいる感覚がないまま英語に親しみ、文法も自然に学んでいました。

中等部ではネイティブの英語の先生が貸してくださった書籍『ロミオとジュリエット』の古典の原文に夢中になり、好きなシーンは何百回と繰り返し読みました。しかもせっかくだから英語劇もやろうと生徒たちで話が進み、ジュリエット役をやらせてもらったことも英語好きに拍車をかけました。

高等部の英語クラスは能力別で、私は留学生や帰国子女のいるクラスに入ることができました。そしてますます英語が楽しくなり、さらに人とコミュニケーションを取ることも大好きだったので、国、文化、人への理解を深められる国際政治経済学部に進学を希望するようになりました。

——**希望通り、現在は国際政治経済学部国際コミュニケーション学科に在籍されています。**

国際コミュニケーション学科は必修の6、7科目が英語の授業なので、刺激を受け、学びがいがあります。留学経験もなく、ごく身近にネイティブがいたわけでもないのに、ネイティブと一緒に授業に参加できているのは、青山で英語を学び続けてきたおかげです。大学では、必修以外の科目は無意識に英語と宗教に関する授業を多く履修しています。自分の興味の行きつく先がそこなんでしょうね。

——**1歳から教会に通われ、今も礼拝に参加されているとお聞きしました。**

学校、家庭、教会が一つの環境にあってこそキリスト教に根づいた生活ができるというのが両親の考えだったこともあり、キリスト教の教えは私の人生に大きな影響を与えています。日々の中に「祈り」という神様とお話する行為がごく自然に組み込まれているので、キリスト教は私を形成する大きな柱のような存在です。

また、去年出場したミス・インターナショナル日本大会で、私は座右の銘を幼稚園での聖句「いつも喜んでいなさい、どんなことにも感謝しなさい」を迷わず選びました。日本大会前の選考中は緊張や不安もありましたが、礼拝でお祈りして讃美歌を歌うことで、揺らぎそうになる心を整えることができました。



“青山の”ミス・インターナショナル日本代表

——ミス・インターナショナルに応募されたのはなぜでしょう。

20歳になるので、何かに挑戦したいなという漠然とした思いがありました。その中で、「人前で話すことが好き」という強みを発揮できること、国際交流ができること、そして「国際社会への貢献」という趣旨自体に青山での学びを生かせることが、ミス・インターナショナルだったのです。また、かつて父が司会をしていた大会であることにも惹かれました。スピーチが重視されるので、高等部の英語の先生に英語のスピーチをみていただきました。また、青学の皆も応援してくれて、どれほど心強かったか分かりません。

日本代表になってからは代表としての活動があるので、勉強との両立は大変です。移動中などの隙間時間も活用して勉強をしています。先生方も手厚いフォローをしてくださいますし、友人も休んだ分のノートを見せてくれるなど、とにかく周りの方々のサポートに支えられています。私の中では、青学生として代表に選んでいただけて、現在も活動させているという意識が非常に強いです。また、ちょっとした気遣いをしたときなどに「青学生らしいね」と言っていただくことも多々あります。それは私にとって大変うれしいことです。

——在校生へのメッセージと今後の抱負をお願いします。

私は幼稚園から大学と、どの場面でも主体的に学ぶ機会に恵まれてきました。また、それを温かく、優しく見守ってくださる先生方と、とても整った環境で過ごせていることに、いつも感謝しています。これからも皆さんと一緒に、青山学院生の誇りを持って、“Be the Difference”で共に歩んでいきたいです。また、常に「地の塩、世の光」という言葉と共にあり、地の塩として人のために働くことが私自身の喜びにもつながるということも学びました。様々な分野で先輩方がたくさん活躍している姿を見て、私も世の光としての働きができるよう、これからも青山学院での学びをさらに深めていければと思っています。



2019ミス・インターナショナル日本代表受賞の様子



幼稚園を訪問し、園児たちに英語で絵本の読み聞かせをする岡田さん